May 2016 subject reports

Japanese ab initio

Overall grade boundaries

Standard level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 14	15 - 29	30 - 45	46 - 60	61 - 72	73 - 85	86 - 100

Standard level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 3	4 - 7	8 - 11	12 - 15	16 - 18	19 - 21	22 - 25

提出された成果物の特徴および適切さ

ほとんどの場合において使われた VS は適切で、レコーディングの手順及び教師による採点が正しく行われていた。教師による気配りにより、リラックスした雰囲気が意図的にしかも上手く作り出された IA が比較的多くあった。教師が生徒のペースやリズムに合わせて進めた為であろう。レコーディング中は多くの教師が生徒の言語レベルを熟知していたので、生徒は生き生きと会話ができていた。各パートの時間配分が自然な流れの中でしっかりとできている学校が多かった。特に、次のパートへ移行する際にその旨を教師が生徒に伝えていたレコーディングはスムーズに進行した傾向が強くあった。それは、生徒がそれに合わせて気持ちを切り替えていたからであろう。

その一方で、VS が適切でなかったり、レコーディングの手順が正しくなかったり、レコーディングの状態が良くなかったりする IA もあった。まず、VS が日本の文化や社会と全く関係がなく、学校が所在する地域や国に関連しているものや、生徒が説明をする際に難しいと思われるものがあった。次に、少数ではあったが、VS にキャプションが書かれていて日本語 B と混同している IA があった 。WA に関する質問がされていなかったり、パートを問わず規定されている時間よりも長くレコーディングされていたりする学校が少なからずあった。VS の

描写と生徒との一般的な会話で終わってしまうレコーディングもあった。１つのトピックについて質問をする際に、深く掘り下げ過ぎずに制限時間を考慮して多岐にわたる質問をするようにしたい。会話の練習ではないので、レコーディング中に生徒が間違えた文法や発音を訂正するべきではない。そして、レコーディングがされている部屋の外の雑音や校内放送がうるさく、教師と生徒の発言が聞こえ難いものがあった。静か過ぎても生徒が緊張する場合があるが、限られた時間内でのレコーディングなので、生徒の集中力が途切れる事がないような環境が望ましいであろう。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A では、大多数の生徒が習得した日本語を積極的に使う姿勢でレコーディングに臨んでいた。多くの生徒が比較的豊富な語彙と基礎的な文法を意識して正しく使っていた。恐らく WA 等の様々な分野でのタスクを通して語彙力や文法力を身に付けたのだろう。教師との会話のやり取りから推察すると、個人的な趣味の分野でも日本語能力を伸ばしていた生徒がいた。

その一方で、助詞の使い方や形容詞や動詞の活用を間違える生徒も多くいた。例として、「**に/へ** 行きます。」の表現を「**を** 行きます。」と言い間違えるケースが挙げられる。また、い形容詞とな形容詞に「**の**」をつけて誤用するケースや、**て**フォーム や **たり**フォーム の使い方が正しくないケースも挙げられる。特に会話内容に影響はなかったが、現在形や過去形を正しく使っていない生徒が多くいた。残念なのは、単語や表現を知っていても発音が正しくない為に、生徒の発言内容が不明になる傾向があった事だ。また、発言したい内容が沢山あっても、それらをどのようにして日本語で表現して良いか分からず詰まってしまう生徒が少なからずいた。

規準 B では、生徒の会話を継続する能力が総じて高かった印象を受けた。個々の生徒の日本語能力に差がある中で、それぞれのレベルにおいて質問に対する応答が適切にできており、会話が比較的スムーズに進んでいた。特に会話スキルが高い生徒は教師の質問に答えるだけでなく、自発的に会話の内容を広げる事ができていた。また、ほとんどの生徒が WA に関する質問に答える事ができていた。これは教師の質問の内容が抽象的ではなく具体的である時に顕著であった。生徒がリラックスできるように教師が努めて暖かい雰囲気を作り出しているレコーディングでは、生徒が実力を発揮できていた為か会話のやり取りがスムーズである事が多かった。

その一方で、少数であったが、教師との受け答えがスムーズにできていなかった生徒がいた。質問に答えられない場合は、押し黙るのではなく、質問の意味が分からないのか、質問に関する知識等がなく回答ができないのか、はっきりした意思表示をする事で会話の流れがよりスムーズになるであろう。日本語能力に自信がない為か、小さな声で発言をする生徒にこのような傾向が見受けられた。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

Ab initio のガイドに沿った IA のアウトラインやタイムラインに生徒が慣れていない印象を受けたレコーディングが少なからずあった。教師は生徒がそれらを理解するようにレコーディングの前に十分な説明をする必要があろう。

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

前述したが、過去形と現在形を会話の中で間違えて使っている生徒が多くいた。教師が質問をする際に使った時制を聞き取り理解できていれば、正しい回答ができたであろうケースが多くあった。生徒のスピーキング能力を上達させる過程において、リスニング能力の強化は必要不可欠であろう。

生徒が話し難い VS がある印象を受けたので、VS の選択には注意が必要な場合がある。日本の文化や社会に関連している VS であっても、シンプル過ぎるものは、生徒が形容詞や動詞等の語句や文法を駆使して表現するには適さない場合があるので、できるだけ避けるべきであろう。VS は生徒が自由に話す事ができるものを準備する事が望まれる。人物や風景等についての説明を順序立ててする練習も有効であろう。その際に使うキーワードやそれらに続く文章の組み立て方の習得を促す事で、生徒の話し方を上達させ一貫性を持たせる効果が期待できよう。先生は生徒が柔軟性を欠くような話し方をする事がないように注意する必要があろう。

形容詞や動詞の基礎的な活用が正しくできていない生徒が少なからずいた印象を受けた。また、教師と会話をする際に常体と敬体の違いを正しく理解して使えていない生徒もいた。授業内外での練習等を通してそれらを習得させる指導が求められるであろう。

生徒の言語スキルの差が大きい学校では、教師がどのような表現を会話の中で使うかに留意をした方が良い。「〇〇はどうですか」等の抽象的な質問をすると、生徒によっては回答できずに混乱してしまう場合がある。生徒が質問に答えられない時は、質問の意味が分からないのか、質問に対する回答ができないのかをはっきりさせる必要がある。その為の練習を普段の授業の中でするべきであろう。質問をした後に生徒が押し黙ってしまうような場合は、生徒が習得した言語レベルに合わせたフォローアップクエスチョンをする事が望ましい。

会話の中で相槌を打つ癖をつけると、生徒の話し方にリズムができ、 間は短いが、次の発言の内容について考える事ができよう。日本語の相槌は他の言語のそれと異なるので、生徒が混同しない様に指導するようにしたい。また、外来語がその言語の発音のまま使われていたケースが少なからずあった。会話の練習をする際に、外来語をカタカナ音で発音する機会を作る事も有用であろう。

生徒が大きい声で日本語を話す癖をつけておくと、レコーディング中に緊張する度合いが小さくなる傾向がある。ペアワークやグループワーク等の開放的な雰囲気の中でそのような習慣をつけさせる事により生徒同士で発音の間違いを指摘し合う和気あいあいとした雰囲気も比較的容易に作る事ができよう。また、日本語と他の言語では話す時に異なる表情筋を使う場合が多い。それ故に、口を意識して開けて大きい声で会話をする事で、生徒は 発音の向上を期待できるのではないだろうか。

Standard level written assignment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7

Mark range:	0 - 3	4 - 6	7 - 9	10 - 12	13 - 14	15 - 17	18 - 20

提出された成果物の特徴および適切さ

- 手書きからワープロタイプになったため、漢字自動変換機能により、ab initio のレベル以上の漢字や語彙を使用する生徒が増えた。辞書や参考書のおかげか、教師の添削が入っているのか、判別が難しい。
- トピックの選び方がより的確で、求められている情報の書き方についての理解がより進んでいる。しかし、各パート(A: Description B: Comparison C: Reflection)に何を書くか、いまだに理解していない答案も見られた。以前よりは減っているが、A に「トピックの提示」や「そのトピックを選んだ理由」について書いている生徒も複数いた。
- A の説明の部分が長い答案では、次の B で述べるべき比較情報も含めてしまっていることが多かった。
- C Reflection 意見の部分が重視される得点配分になっているので、生徒はリサーチを通してより深く考えてまとめる必要がある。高得点の生徒は、C の部分が詳しく書けていた。

評価規準に基づく受験者の到達度

A. Description: 説明

- ほとんどの生徒は、日本の情報を 3 つ以上記述できていた。日本に関する情報を述べるかわりに、「トピックを選んだ理由」や「トピックの提示」に終わってしまう生徒も少なからずいた。ここに何を書くか、しっかりと理解しておくことが大切である。
- いまだに自国の文化について書いている答案もあった。
- 見出しをつけずに、最初から日本と自国の内容を比較しながら書くと、すべて「B 比較」のパートとみなされ、「A 説明」の点数が 0 点になる可能性が高いので、注意が必要である。
- 参考文献からの引用を多用しているケースがあった。字数のほとんどが引用にならないように注意する必要がある。

B. Comparison: 比較

- 二つの文化の似ている点と異なる点について、よく比較できていた。A の説明で述べた日本についての情報に対し、自国ではどうかを対照的に述べている答案が多かった。
- 数は少ないが、この部分が比較ではなく、自国の単なる説明になっている答案も見受けられた。A の説明に書かれていた内容に対応していないと、明確に比較できたことにならない。
- 700 字という字数の制限があるので、ここで詳しく書きすぎないように注意する必要がある。

C-E: Reflection

- 一段落でまとめて書かれている答案があるが、段落をつけ、小見出し(質問)をつけて書くと良い。

C. Reflection, Question 1: 意見　おどろきや発見

- Criteria C, D, E は、最も重視される部分である。説明が簡単であったり、一文しか書けていなかったりする場合は、得点は低い。
- まだ述べていない「驚き」や「発見」について書くべきであるが、A もしくは B で既に言及された情報を言い換えたり繰り返したりしている生徒が多く見られた。言及済みの内容では、高得点はとれない。
- 「A 説明、B 比較で述べたこと以外に、新しい発見や驚きを書く」というように、生徒に指導することが得点に結びつく。
- 「びっくりしました」「初めて知りました」の表現を使って、効果的に説明できる生徒が増えた。
- 「おもしろいことを学びました」「私はそれにびっくりしました」「このことをはじめて知りました」といった表現を学習しても、前後の文とつながりよく書けていないと高得点にはつながらない。これらの文を書いただけの答案もあった。

D. Reflection, Question 2: 背景にある理由

- 以前より良くなってきているが、単に「両国はアジアにあるから」「歴史/社会/文化がちがうから」のような説明では、理由にならない。表面的な分析ではなく、その習慣がなぜ似ているか、あるいは異なるのか、深く考えることが必要である。独自の理由をあげても、説明不足だと得点に結びつかない。

E. Reflection, Question 3: 日本人ならどう思うか

- 日本人ならどう思うかを説明する必要がある。既に述べた文章を繰り返したり、単に言い換えたりするだけでは、得点にならない。内容を工夫して書くことが大切である。
- 「日本人は、このことについておどろくと思います」「めずらしいと思うでしょう」のような表現を使って、効果的にまとめることが大切である。そのためには、リサーチを通して、発見したり驚いたりしたことをもとにして、考えを深めていくと良い。
- C-D-E を一つの段落にしている答案や単なる感想で終わっている答案があった。これでは全く得点につながらず、大きな失点となる。

F. Language: 言語

- 手書きでなくなったため、使っている漢字のレベルが上がった。1 点しかとれない答案はほとんどなかった。4 点をとった答案の中には ab initio レベルを超えているものも多く見られた。
- 自動変換による誤変換も頻繁に見られた。今後タイプ方法を学習する際に、注意させる必要があるだろう。

G. Formal requirements: 必須事項

- 文体の統一はほぼできていた。文体の面で失点するケースは、ほとんどなかった。教師の指導が徹底しているようだ。
- 文献リストが、添付資料のファイルに混合されて作成されているケースがあった。文献リストは、WA 答案の最後につけること。
- 参考文献リストには、ウェブサイトのタイトルと URL、アクセスした日づけが必須である。
- 参考文献リストがないケースよりも、日本語の参考文献の添付がないケースの方が目立って多かった。

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

- 次に多かったのが、文献リストのアクセス日が書かれていないケースであった。
- Ab initio レベルをはるかに超えた日本語ソースを使っている答案があった。実際に読んだのか疑問である。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

トピックの選択: 比較しやすく、資料を集めやすいトピックを選択することが大切である。狭すぎるトピックだと、比較がしにくい。広すぎるトピックだと、まとまりに欠ける。人気のトピックは、年中行事、学校(制服、給食、クラブ活動)、食べ物、スポーツ、音楽などであった。トピック選びは非常に重要なので、教師から適切なアドバイスをする必要がある。

日本語資料: 生徒が自力で読めるソースを選んでいるのか、適切なアドバイスが必要である。生徒が読めるウェブサイトを日頃から気を付けて探しておいて、生徒に紹介することも有効であろう。例「みんなの教材サイト」「エリンが挑戦!」

日本語でのタイプスキル: 誤字脱字、誤変換が目立つ。タイプの仕方を学ぶ際に、漢字の意味を理解した上での漢字変換、小さい「やゆよつ」、「ん」などの入力方法をしっかり教える必要がある。

Reflection には、3 文は書いた方が良い。1 文では表面的なコメントにすぎず、高得点に結びつかない。

求められている情報が何かを理解し、比較したり、説明したりする練習をすると良い。

段落分け、説明、比較などの見出しをつけること。

5. その他

- 字数は忘れずに記載すること。
- パートごとにページを変える必要はない。
- 漢字にルビをふる必要は無い。

Standard level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 5	6 - 11	12 - 18	19 - 24	25 - 29	30 - 35	36 - 40

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

Text B

Q14-16. 空欄にテキストの中から言葉を見つけて書く問題。いらない言葉をつけている答えが目立った。

Text C

Q20-23. その文章が正しいかどうかを見分けて、その理由を書く問題が苦手である。理由になる部分を正しく書けていても、正誤のティックをつけるのが逆になっているケースが目立った。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

Text A

Q1-3 のように、語彙が分かれば解答できる問題は、よくできていた。Q4 のように、数を表す基本の漢字や、Q6 のように、基本的な形容詞の語彙は、よく練習できていた。

Q17 や Q27 のように、テキストの中に書かれている例を書きぬく問題は、よくできていた。

設問ごとの解答結果(強みや弱点)

Text A

Q1-3 「やさい」「ねこ」「書、じ」という語彙を知っていれば、簡単に解答できる。

Q4-5 「千」「外国」という漢字を知っていれば、簡単な問題。

Q6 「じょうず」「へた」「にがて」は、基本の形容詞なので、しっかり覚えておくことが大切。

Q7 「安い」という漢字が読める必要がある。

Q8-9 季節を表す「春夏秋冬」、「同じ」の漢字が読める必要がある。

Q10 「おかし」を選ぶ間違いが多かった。

Text B

Q11 「みんしゅくで、何をもらいますか」を選ぶ間違いが多かった。次の「みんしゅくでは、よういしていません」まで、気をつけて読む必要がある。

Q12 – 13 答えに合う質問を選ぶのは、基本の文型が理解できていれば、それほど難しくはない問題である。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

Q14 「山の中」という間違いが多かった。その言葉が文法的にあうかどうかも、考えて入れる必要がある。

Q16 8300 円と 15300 円を足している間違いがあった。「お楽しみつき」を、お楽しみがついている全体の料金ではなく、追加料金だと読み間違えていた。

Q17 「もちつき」という語彙がよく理解できていた。「そば」だけでは、得点にならない。「そば作り」と、何をするかが分かる解答でなければいけない。

Text C

全体的に一番正答率が低い問題であった。

Q19 「2000 年に入ってから」という意味が理解できる必要がある。

Q20-23 設問の意図がきちんと理解されてきているようだが、理由が正しく書けていても、ティックのつけ方が逆になっていて、得点できなかった生徒が、まだ少なからずいた。また「正しい」を選んだ時に、理由を書いていないケースもあった。理由の部分は、「だれでも」「まで」「全いんが」のようなキーワードを落とさないように書く必要がある。

Q24-26 できる生徒は全問、正解できた。しかし「寒くなる」「あたたかくなる」「ふえました」のように基本の語彙が、おさえられていないと、正しく解答できない。

Q27 解答例が 4 つあったので、どれか一つは、比較的よく解答できていた。

Q28 短い文章になっておらず、中途半端な解答が見られた。

Text D

Q29 比較的よくできていた。あまり苦労せずに、内容の読み取りができたようだ。「日帰り」という意味が分からなかった生徒は、「しごとは、ほとんど日帰りです」を間違って選んでいた。

Q30-34 以前よりも答え方が分かってきているようだが、単語ではなく、文で答えているケースがまだ見られる。「ほうちょう」「一週間」という語彙は、比較的よく身についている。特に Q34 が一番正答率が低く、動詞から形容詞を探すのは難しいようだ。Q33 の「あいさつ」という語彙を理解しておく必要がある。Q31「お正月」「新年」も、おさえてほしい語彙である。

こうした語彙探しの問題は、空白のまま何も書いていないケースが多く見られた。

Q35 石川さんの会話文から抜き出せばよいので、比較的解答しやすい問題だったようだ。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 過去の試験用紙を使って練習しておく。質問の答え方に慣れておくことが大切である。何が問われているか、どのように答えればよいのか、毎年出る典型的な設問の答え方は事前に練習しておく。
- テキストの中の単語を書く問題は、解答欄が長いため、文章を書くのかと勘違いす

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

る生徒がいるので、事前の指導が必要である。

- 写真、イラスト、タイトルもテキストの内容理解に役立つので、きちんと見るように指導しておきたい。分からない言葉は、写真、イラスト、タイトルから推量する練習も大切である。
- 「何、どこ、どうして」の疑問詞に注意して答える練習をする。設問の中でテキストのどの部分を読んで答えるかが指示されているので、設問をきちんと読み、重要な指示を読み落とさないように注意することが大切である。記述問題では、「　　」の中の文が解答になることがあるので、「　　」に注意するように、指導しておくと良い。
- 数字と形容詞に使われる漢字を練習しておく。
- 基本語彙を練習する。「やさしい、むずかしい」「安い、高い」のように反対語をペアにして覚える。
- 基本文型を練習する。特に助詞と動詞をセットにして、基本文を覚える。どの助詞がどの語に結びつくか、助詞の徹底指導が必要である。
- 書き間違った解答を直す時は、書いた答えがはっきりと分かるように書くこと。どちらが答えか分からない場合や判読できない場合は、得点にならない。アルファベットを記入する問題の場合、解答欄の誤答を消して、その上に小さく訂正解答を書くのをやめて、横にはっきりと書くか、別紙に書くのが良い。

Standard level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 8	9 - 12	13 - 15	16 - 18	19 - 21	22 - 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

- 質問されている内容が理解できていなかった。
- Q2 のように設問は「計画」であるのに、過去形で答えた生徒がいた。
- Q4 のごみ問題については、今までペーパー2 にほとんど登場したことがなく、十分な勉強ができていなかったようだ。Q4 を選ぶ生徒は少なかった。
- 段落の接続詞があまり使えていない。
- 求められている情報を書くだけの生徒が多かった。、始まりや終わりなどを工夫して、まとまりよく書くのは難しいようだ。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

- 色々なテキストタイプのフォーマットをよく勉強していた。特にメールや手紙の書き方に慣れている。日記についても、年月日や、天気、今日はどんな日だったかを説明する文が書けていた。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

- 基本的な語彙と文型が使えていた。できる生徒は、「と思います、ので、(理由の)から、ながら、・・たいです」のように多様な文型が使えていた。
- 高度な慣用句や言葉などを使えた生徒もいた。また敬語を使い、非常に高い言語能力を見せた生徒もいた。
- タスクで求められている情報の半分は、ほぼ答えられていた。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

セクション A

Q1 新しくできた店についてポスターを書く問題。ほとんどの生徒はタスクを理解できていて、「どこ、何、何時から何時まで」については、よく答えられていた。しかし「どうしてその店が良いか」を説明できていない生徒もいた。全体的に箇条書きと文章を合わせて、よく書けていて、形容詞の接続形を使っていた生徒も多かった。

Q2 夏休みの計画について、友達にメールを書く問題。過去形で書いている生徒が少なからずいた。「計画」の意味が分かっていないようだ。意味が分かっている生徒は、何が一番楽しいかもうまく書けていた。

セクション B

Q3 おもしろい所に行って、新しいことを習った日の日記を書く問題。何を習ったかをはっきり書けている生徒は少なかった。

Q4 町のごみ問題を解決する提案を、町の新聞に書く問題。この問題を選択した生徒は非常に少なかったが、できる生徒は、環境問題について工夫して書けていた。改善策も明確に説明できていた。

Q5 日本の小学校でボランティアをした後、その学校の先生にお礼状を書く問題。手紙の書き方には慣れているようで、書き出しや終わりのフォーマルな挨拶を書けていた生徒もおり、全体的によく準備ができていた。しかし、ボランティアの内容をあまり説明できていない答案が目立った。よくできる生徒は、子どもと一緒に活動したことの良さを説明するなどして、経験した楽しい活動について工夫して書いていた。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

- 手紙や新聞記事、メール、ブログ、スピーチ、日記など、いろいろなテキストタイプで、フォーマットとして必須項目が何かを理解した上で作文を書く練習をする。ポスターを書く練習もすると良い。
- 多様な文型が使えるように練習する。例えば、「・・した後で、(理由の)から、ので」のような表現が使えると、言語面で得点が高くなる。複文をある程度使えるようにしておくと良い。
- また、「そして、次に、それから」といった接続詞が使えるように練習をしておくと良い。
- タスクにあった時制で書く練習をする。
- 段落をとって構成を考えて書く練習をする。書き始めとしめくくりを工夫すると良い。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

- 動詞、形容詞、助詞をきちんと正確に理解しておく必要がある。カタカナや漢字の練習や、語彙を覚える時間も、時に授業に入れると良いだろう。正確さを高めるためには、毎日の練習が効果的だろう。